

チンチラの黄色ブドウ球菌性角膜炎および脚部脱毛症とその治療

川角 浩^{1)†} 宍戸真央²⁾ 天尾弘実¹⁾

1) 日本獣医生命科学大学応用生命科学部 (〒180-8602 武蔵野市境南町1-7-1)

2) (株)メルシャンクリンテック (〒251-0057 藤沢市城南4-9-1)

(2009年1月27日受付・2009年6月12日受理)

要 約

17匹のチンチラ (*Chinchilla laniger*) を飼育している施設において、同時期に角膜炎、および脚部脱毛症が各1匹自然発生し、病変部より黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus*) が純培養状に分離された。薬剤感受性試験の結果をふまえ角膜炎の個体は、ニューキノロン系抗生物質と角膜潰瘍改善薬を1日5回5日間点眼後、ビタミンB₂点眼剤と角膜潰瘍改善薬を1日2回34日間投与することで、また脱毛症の個体はニューキノロン系抗菌塗布薬を1日1回4日間用いることにより、病変は完全に治癒し *S. aureus* も検出されなくなった。以上のことより、チンチラにおいて *S. aureus* 関与による角膜炎および脚部脱毛の自然発生が確認され、薬剤感受性試験結果をふまえての今回の治療は有効であることが示された。——キーワード：チンチラ、黄色ブドウ球菌。

----- 日獣会誌 62, 886~889 (2009)

† 連絡責任者：川角 浩 (日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科実験動物学教室)

〒180-8602 武蔵野市境南町1-7-1 ☎0422-31-4151 FAX 0422-33-2094 E-mail : kawasumi224@nvl.u.ac.jp